

2026年3月8日午前10時30分
 受難節第3主日 主日礼拝
 司会 島中祥世
 奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)
 前奏
 招きのことば ヘブライ 2:17-18
 讚美歌 299 「うつりゆく世にも」 一同
 交読詩編 31:8-14(P.36/32)

祈り 司会者
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫
 本庄教会 本庄旭教会
 (主の祈り)

讚美歌 298 「あゝ主は誰がため」 一同

聖書 旧約:イザヤ 48:1-8(P.1140)
 新約:マルコ 8:27-33(P.77)

メッセージ『いばらの道』
 祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 304 「茨の冠を主にかぶせて」 一同

献金 一同
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのラター 第3主日) 一同

頌栄 11(3)
 祝禱 川上 盾 牧師
 後奏
 報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18
 イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。

≪3月礼拝当番≫ 徳江由利 田村 啓
 小林友栄 楠元 桃
 奈良正太郎 鈴木容子

- ≪今週の集会・行事≫
 ◎ 本日礼拝後 教会報委員会
 ◎ 9日(月) 牧師、上毛愛隣社理事会
 ◎ 10日(火) 牧師、育心こども園
 ◎ 11日 東日本大震災から15年
 ◎ 11日(水) 牧師、群馬ヤスクニ委員会
 ◎ 12日(木)10:30 紅雲町集会
 ◎ 14日(土) 10:00 会堂清掃 B組
 ◎ 14日(土) 牧師、清心幼稚園卒園式

≪次週の主日≫
 ◎主日礼拝 10:30
 メッセージ『栄光の山から下りて』
 聖書:旧約:出エジプト 24:12-18(P.134)
 新約:マルコ 9:2-10(P.78)
 讚美歌 311(1-3), 311(4-6), 285, 20(3)
 交読詩編 27:7-14(P.32/28)
 司会:深町穰 奏楽:徳江由利
 ◎群馬地区総会 14:00

≪予告≫
 ◎ 婦人会例会 19日(木)10:30

≪報告≫
 ◎ レント(受難節)の季節を過ごしています

イエス・キリストの十字架への歩みを覚え、キャンドルの火を一本ずつ消しながら過ごします。自らの罪を悔い改める、克己・修養の時でもあります。この季節に相応しい歩みを求めましょう。

◎ 受難週・イースターのご案内

† 受難週祈りの課題(3/29-4/3)…3月教会カレンダーに月曜～金曜にかけての聖書箇所を選びました。それぞれで聖書を読み、祈りの時をお過ごし下さい。なお、4/1(水)は聖研祈禱会を受難週祈禱会として行ないます。

† イースター(4/5) … *CS礼拝 8:00 より。恒例のエッグハント。*イースター礼拝 10:30 より。聖餐式を行ないます。*墓前礼拝 13:30 より。納骨式も併せて行ないます。

† 墓地清掃についてのおたずね…このところ、春も秋も墓地清掃は墓前礼拝の前に行ってきました。今回は前日(4/4)に墓地内部の調査を行なう予定があり、可能ならば清掃も済ませたいと思っています。4日(土)14:00 より墓地清掃に来れる方は、掲示板の用紙にご記名下さい。ただし人数が少ない場合は、再度検討します。

≪消息≫

- ◎ 寺尾百合子さん … 慢性硬膜下血腫の手術を受けられ、入院中です。一日も早い回復をお祈りいたします。
- ◎ 青柳英隆さん … 毎年クリスマスの飾りつけでお世話になっていますが、樹木上での作業で転落、鎖骨・肋骨を骨折されました。一日も早い回復をお祈りいたします。

≪先週の集会≫

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	49	18	32,037
	昼	夜	計
聖研祈禱会	9	4	13
世界祈禱日	11(前橋教会より)		38(全体)

《メテジ》「神の救いを認めない人々」
 エレミヤ 24-11, マルコ 3:20-27(3月1日)
 ▼教団の聖書日課の新約は「ペルゼブル論争」。何回も話している気がして調べてみたら、2014年以降6回も聖書日課として取り上げられていた。いずれもレントの時期、しかも2021年から23年にかけては3年連続。聖書日課委員会さん、何とかしてしまい。▼同じ話を何回もするのは気が引けるので、今日は周遍的なことを。それはイエスによって示された「神の救いの出来事」を認めようとならない人々を見た、ということを取り上げたい。▼ひとつは律法学者・ファリサイ派の人々。イエスと事あるたびに対峙していた当時のユダヤ教指導者たちである。しかし彼らとイエスによって実際になされている「しるし」そのものを否定することはできない。▼そこでそのしるしを起した力の源泉を非難する作戦に出た。それが「あの男が悪霊を追い出しているのは、悪霊の頭・ペルゼブルの力によるのだ」という中傷である。例えば、すばらしい小説を書いた新人に対して、「あれはAI使って書いたんだ」とクレームをつける...という感じだろうか。▼もうひとつ、イエスのしるし＝神の救いを認めない人々が描かれる。それはイエスの家族である。イエスが各所で癒しを行ない、特に悪霊に憑かれた人を癒す姿を見て、「気が変になつた」と言って取り押さえに来た、と記される。▼イエスと身内の人々とはあまり良好な関係でなかった...そんなことを思われる箇所は他にもある(マルコ 3:31-35など)。身内ならではの関係の近さが、かえって正当な評価を妨げる...そんな力学を感じる。どんな大天才でも家族内では「変わり者」として扱われる...そんな感じか。▼律法学者たちはイエスへのライバル心から、家族は関係の近さから、いずれも低評価を下す。神の救いはあるのに、それを受ける人間の心がそれを認めないのである。▼旧約の箇所、エレミヤの言葉もそんな人々の姿をあぶり出す。「バビロン捕囚の苦しみ、それはイスラエルの過ちに対する神の報いだ」と語るエレミヤは、安価な慰めを語らず、厳しい真実を告げる。今日の箇所もそんな告発の言葉である。▼イスラエルの民にとって、救いの原点である出エジプトの出来事。それによって実り豊かな「約束の地」に導かれたにもかかわらず、人々はヤハウェの神を忘れ、豊穡の神・バアルに身を寄せてしまった。その姿を「神ならぬものを神とした」と断罪する。▼イスラエル(ユダ)の民はどこかで間違えてしまった。それは出エジプトで示された神の救いを忘れてしまい、自分たちの欲望を都合よくかなえてくれるバアルを求めたところにある。「約束の地」という救いが与えられているのに、それを「あたりまえ」ととらえてしまい、ヤハウェの神への感謝を忘れてしまったのだ。▼私たちも同じ過ちを犯すことがないだろうか。神の恵みによって今を生きている、生かされている...そのことへの感謝を忘れ、それが「あたりまえ」になってしまふことによって、次第に己の欲望の虜になってしまう...そんな過ちに気付き、「いま・ここ」に与えられている神の救いを感謝する心を取り戻そう。